

利益成長を伴った、持続的な資本効率向上が重要。 ROEは5.8%をマイルストーンに、その先は8%が目標。



代表取締役社長

山本 良一

Q 2014年度の 業績を振り返ってください。

A 当社連結売上は、1兆1,495億円、対前年同期比較では0.3%の増収となりました。連結営業利益は、対前年0.7%増の420億円、経常利益は対前年0.2%減の404億円となりました。連結当期純利益は、2013年度第1四半期にピーコックストア株式の売却益184億円を計上した反動もあり対前年36.9%減の199億円となりました。この結果、営業利益は、5年連続の増益、且つJ.フロント リテイリング設立以来の最高益を達成することができました。

一方、10月の予想数値との比較では、営業利益は9億円、経常利益は5億円それぞれ下回りました。これは、主として、昨年4月に実施された消費増税の影響が当社の想定以上に長引き、百貨店の特に婦人服のボリュームゾーンを中心とする売上の回復が遅れたことに加え、郊外店と地方百貨店の回復がさらに遅れたことなどによるものです。純利益は予想を9億円上回ることとなりましたが、これは投資有価証券売却益などを特別利益として計上したことが主な要因です。

セグメント別では、百貨店事業は、消費増税の影響や、再開発に向けた松坂屋銀座店の営業終了、上野店南館建替えに伴う面積減などの影響も加わり、大丸松坂屋百貨店および関係百貨店ともに苦戦し、売上は、対前年比較で1.2%の減収となりましたが、コスト管理の徹底により営業利益は0.6%の増益となりました。パルコ事業は、昨年11月に新館をオープンさせた福岡パルコが好調に推移したほか名古屋ゼロゲートの新規開業などが寄与し対前年比較で2.2%の増収、2.0%の増益となりました。ご参考までに、株式会社パルコとしての決算では、営業利益は最高益を更新しております。卸売事業は6.2%の減収で5.3%の減益、クレジット事業は9.9%の増収で7.5%の増益、その他事業は9.8%の増収、18.3%の減益でした。



福岡PARCO本館(左)と新館(右)



名古屋ZERO GATE